

尊光寺報

第121号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座⑬

(赤い経本七巻)

本願名号正定業 至心信楽願為因

「信心が往生の因となる」

まずは前回のおさらいです。阿弥陀さまの根本の願い(本願)に誓われた、ナモアミダブツの名号は、私たちが必ず浄土へ連れて行くはたらき(業)である、と前回お話をしました。

今回は、つづく「至心信楽願為因」の部分です。

阿弥陀さまの第十八願(本願)には、「たとえわれ仏を得たらんに、十方の衆生、至心信楽して、わが国に生ぜんと欲ひて、乃至十念せん。もし生ぜずは、正覚を取らじ。ただ五逆と誹謗正法とをば除く」と誓われていますので、「至心信楽の願」とは、この第十八願(本願)のことを指します。阿弥陀さまの本願が因であるとは、どのような意味でしょうか。

第十八願の文面では、私たちが「至心」と「信楽」と「欲生(生ぜん)と欲ひて」という三つの心をおこしなさい、とあります。「至心」とは、誠実な心、真実の心。「信楽」とは、信じよるこぶ心。「欲生」とは、浄土に生まれたいと思う心です。

親鸞聖人は、私たちの心のどこを探してもこのように三つの心は見当たらないと嘆いておられます。そればかりか、私は遙か彼方の昔から嘘や偽りを好み、心と体を悩ませ苦しめ続け、この四苦八苦の世界を生まれ変わり死に変わり、輪廻し続けてきたではないかと指摘されています。そのような私たちが、これまで、これからも自ら真実の心を起こすことにはないのだと言い切っておられるのです。それでは、阿弥陀さまの誓われた第十八願では私たちが浄土に往生することが出来ないことになつてしまします。

親鸞聖人はそのことについて、よくよく考えると阿弥陀さまの本願は、どのような行も修めることの出来ない、煩惱まみれのこの私を救うためにおこされたものである。阿弥陀仏の名号、南無阿弥陀仏とは、「必ず救う、われにまかせよ」との阿弥陀さまからの喚び声であった。私たちはその「われにまかせよ」の喚び声におまかせをすることによって浄土へ間違ひなく参らせていただくのだ、と示しています。この喚び声におまかせをする心こそ、「信

心」なのです。親鸞聖人は信心を、「疑いのまじらない心」「はかりのまじらない心」なども表現されています。

「至心・信楽・欲生」と三つの心が本願にあるようですが、それらは私たちが頑張っておこす心ではなく、阿弥陀さまの「まかせなさい」という喚び声を疑いなく聞かせていただくその心(信心)に具わっているお徳を表してくれたものなのです。

先人はよく阿弥陀さまを親に譬えてきました。自分の力で大人のご飯を食べることが出来ない幼子に、母が食べられるようにと幼児食を作り口に運ばせる。幼児が口にしたその食べ物には、すくすくと成長する栄養が全て詰まっています。この譬えは、自分では大人の食べ物を食べられないのが私たち、何とか栄養のあるものを食べさせようとする親が阿弥陀仏。口に運ばれた幼児食がナモアミダブツの念仏であり信心です。その信心一つ、念仏一つの中には私たちが浄土へ参る栄養が完全に詰まっていると譬えるのです。はかりしれない親の苦勞の中に私たちの成長があるように、はかりしれない阿弥陀さまのお育ての中に私たちは念仏申しつつ浄土への人生を歩んでいるのです。

まとめますと、本願に誓われた名号「南無阿弥陀仏」は、私たちの口元ではナモアミダブツの念仏となつてはたらき、心では信心となつてはたらいてくださっている。私たちには真実の心はないけれど、阿弥陀さまから恵まれたこの信心が因となり浄土に参らせていただくことが間違ひないのだと言い切っておられるのです。

インド 仏教美術の至宝を訪ねる旅②

インド内陸の田舎町、サーンチー。その町を見下ろす丘に第一の目的地であるストウーパ(仏塔)が鎮座する。紀元前3世紀、インドを初めて統一したアショーカ王はその領内で仏教を保護し、各地にストウーパを建立した。ストウーパはお釈迦さまの遺骨を納めるお墓所であるが、中にはお釈迦さまの骨の無いものも多い。このサーンチーのストウーパも同様であり、お墓所というよりはお釈迦さまを慕う思いを形に表したもので



サーンチーストウーパ第1塔

法要・行事のご案内

◎ 盂蘭盆会法要

【8月15日】午後6時より

※各家庭での初盆法要は事前にお寺までご連絡ください。

◎ 中四国地区仏教婦人会大会

【8月30日】午前9時受付 アステイ徳島

参加費用 3千円(昼食代・お寺からアステイまでのバス代)

○本願寺より、ご門主さまを迎え、中国・四国地方の仏教婦人会大会が徳島で開催されます。婦人会会員はもとより、多くの方がご参加ください。

※申し込みは尊光寺まで。7月9日〆切

講演 気仙沼すがとよ酒店 菅原文子さん
講演 法話楽団「迦陵頻伽(かりようびんが)」
そのほか、阿波踊りなど

◎ 秋の彼岸会永代経法要

【9月23・24日】両日とも午後1時から

※24日は仏教婦人会による阿北老人ホームお接待日です。

会員の皆さまは9時頃より準備よろしく願います。

〈法話 本願寺派布教使 藤井真隆 師〉
○太陽の沈む西方に懐かしい方の往かれた浄土を思わせていただき、ともに念仏に抱かれていく喜びを聞かせていただきます。どうぞお一人でも多くの方のお参りをお待ちしております。

■ 五ヶ寺連研をのぞいてみませんか。

鴨島町・石井町の浄土真宗本願寺派の寺院五ヶ寺が連続して講座を開いています。仏事作法や仏教の話の話を気軽に聞いてみませんか。副住職も講師の一人として共に学んでいます。

興味ある方はどうぞ気軽に副住職まで連絡下さい。

8月10日、18時半 正信偈の解説(鴨島徳住寺)

8月12日、19時半 正信偈と作法(石井西方寺)

8月17日、18時半 法話(石井光明寺)

9月8日、19時半、和讃について(鴨島 西円寺)

1月12日、18時半、仏教讃歌(鴨島 徳住寺)

3月9日、18時半、まとめ(石井 西方寺)

と言った方がよいだろう。アショーカ王が基壇を整えた後、紀元後1世紀頃までこのストウーパは完成したとされ、大きさは直径37m、高さ16mの土まんじゅう型。何と言っても、塔を囲む門や欄楯(玉垣のようなもの)の随所にほどこされた彫刻の素晴らしさに目を奪われる。サンチーには写真の第一塔の他にも、大小様々なストウーパや、僧侶が生活した僧院の跡が残る。この仏教遺跡群は1989年に世界遺産に登録。現在は公園として辺りは整備され、国内外からの観光客を集めるとともに、近所の人のどかな憩いの場となっている。



インドの女神ヤクシーとゾウ

まず、その門柱を見てもみよう。この門柱はトーラナと呼ばれ、日本の神社の鳥居の原型であるという学説もある。東西南北それぞれの門柱には、お釈迦さまの一生のエピソードやインドの神々が彫刻されている。特徴は肉感的であり、男性・女性・動物などその彫り感は一変する。お釈迦さまの姿は人間の姿で直接表現されることは少なく、菩提樹などが彫られ、そこにお釈迦さまがいるように間接的に表現されるのも特徴である。

ストウーパの回廊は二層になっており、上階からはサンチーの町が一望でき、近くに大規模な僧院の跡が残っていることに気づく。どのような言語でお経を読み、どのように町へ托鉢に行き、どのような修行をなしたのだろうか。具体的な内容を現代に伝えるものは残っていないが、この大塔を中心に、多くの僧侶が生活をし、修行に励んだ事実ははつきりと伝わってくる。



僧院跡 1つ1つのくぼみが部屋である

また、お釈迦さまの高弟である舍利弗と目連の骨を納めたストウーパが大塔に寄り添いお釈迦さまを慕うかのようになっているのも感慨深い。このサンチー仏塔でどれほどの時間を過ごしたのだろうか。

彫刻一つ一つをゆつくり見て回り、点在する僧院や小さなストウーパを追いかけよう。数時間が経過したようだ。インド人ガイドのジヤイさんはそんな僕らに飽きたようで、そろそろチャイにしましょうと声をかけてきた。チャイを飲みながらの、現地の方との交流も面白い。家族連れだろう、僕たちが東洋の端から来た人間だと分かると、珍しいのだから一緒に写真を撮ろうと誘ってくる。さらには息子の自慢が始まり、よかつたら息子と一緒に写真を撮ってくれとなる。こんな日本人との写真にどれほどの意味があるのか不明であるが、東西を問わずの親バカぶりに親近感を抱きホッとしたのであった。



菩提樹で表されるお釈迦さまに対して周りの人々が神々が手を合わせる

ストウーパを後にして、その日はサンチーのホテルで宿を取った。夕方に町の市場をウロウロしてみたが、事前に聞いていた物乞いには遭遇しなかった。平たい顔を初めは珍しそうに眺めてくるが、すぐにジャパン！と友好的な笑顔をみせてくれる。ストウーパの丘の麓、サンチーは穏やかな空気の流れるよき田舎町であった。翌朝は近くにある別のストウーパ群を見るために車を走らせた。サンチーからさらに田舎。農道のような細い道でこの路の先に数え切れないほどのストウーパがあった。形はサンチーの土まんじゅう型と異なり、□□○のような形や、土まんじゅうの上部を削ったような形である。作りかけで放置されたものもある。一体なぜこれほどまでのストウーパが作られたのだろうか。間違いなくストウーパを作るブームがあっただろう。そこには人々の、ブツダに会いたい、心の平安を願う想いが大きくなっていたに違いないのである。



以上、ストウーパに興味は尽きないが、そればかりも見ていられないので、次の目的である石窟寺院へと向かう。(つづく)

行事スナップ



春の彼岸法要 佐竹先生は、スクリーンを使いながら分かりやすくお話くださいまし



本願寺・大谷本廟参拝 90名近くで参拝できました。

副住職担当

NHK文化センター
徳島教室のご案内

各講座、受講生募集中
6回6ヶ月で13,478円
問い合わせは、
徳島駅前NHK文化センター
(電話 083-611-6881)



●親鸞聖人と「歎異抄」 月1回 月曜 午後1時半、
7月9日、8月20日、9月10日、10月8日

「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」で知られる『歎異抄』を読みながら、親鸞聖人の生涯とその教えを味わいます。

●仏教講座「御文章」を読む 月1回 金曜 午前10時、
7月13日、8月3日、9月14日、10月12日

「朝には紅顔ありて夕には白骨となる…」本願寺八代蓮如上人が残した『御文章』を読みながら、仏教の基礎知識とそこに書かれた仏さまの心に触れてみませんか。

平成30年 年忌表

1周忌	平成29年
3回忌	平成28年
7回忌	平成24年
13回忌	平成18年
17回忌	平成14年
25回忌	平成 6年
33回忌	昭和61年
50回忌	昭和44年
61回忌	昭和33年
100回忌	大正 8年
150回忌	明治 2年
200回忌	文政 2年
250回忌	明和 6年
300回忌	享保 4年

過去帳・お位牌
をお調べください

中・四国地区仏教婦人会大会 ご案内

このたび、本願寺よりご門主さまをお迎えし、仏教婦人会大会が開催されます。
徳島開催の機会ですので、仏教婦人会会員の皆さまはもとより、多くの方々にご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

■日 時: 2018(平成30)年 **8月30日**、9:00～受付、15:30解散

(尊光寺よりバス8:00出発予定、現地集合現地解散も可)

■会 場: アスティ徳島

■会 費: 3000円(バス代、昼食代、記念品代を含む)

■テーマ: 「いのち・つながり・ご縁」

■大会内容

おつとめ

講演① 気仙沼すがとよ酒店店主 菅原文子さん「悲しみの中から生き抜く力を」

講演② 法話楽団 迦陵頻伽(かりょうびんが)「悲しみの向こうで あなたにあえる」

阿波踊り

■申込は尊光寺(0883-36-3026)まで7月9日まで■



菅原文子さん

1949年気仙沼市生まれ。1973年すがとよ酒店菅原豊和と結婚。2011年3月の東日本大震災によって、店舗は破壊され、義父母を亡くし夫は行方不明となる。被災から一ヶ月半で別地にプレハブを建て息子たちと営業を再開。菅原さんが書いた『負けねえぞ気仙沼』のラベルのお酒が話題となり、復興のシンボルに。行方不明の夫への想いを綴った『あなたへ』が「KYOTO KAKIMOTO恋文大賞」を受賞。2012年自宅跡近くから夫の遺体が発見される。2016年12月地元本店舗をオープン。著書に『あなたへの恋文』他。



迦陵頻伽(かりょうびんが)

法話楽団 迦陵頻伽は、本願寺派普元寺 西脇眞住職が2001年に結成した音楽法話のグループ。童謡などのなじみ深い歌を皆さんと歌いながら、浄土真宗のみ教えをやさしく語る。随所に音楽を取り入れた法話は全国各地で好評。2007年にライブCD『法話楽団・迦陵頻伽』をリリース。